

論文テスト 慶應義塾大学 商学部 1/3

<総括>

試験時間 70分

問題形式は、例年通り数理的推論を含む推論中心の問題である。大問数は、昨年度と同じ2題。出題テーマは、超スマート社会の倫理とモンティ・ホール問題についてである。大問Ⅰは空欄に語句を補充する問題が含まれている。空欄に語句を補充する問題を解くためには、単に文脈で判断するだけでなく、課題文の内容を十分に理解したうえで、論理的な思考で最も適切な語句を選択することが重要である。大問Ⅱはモンティ・ホール問題である。モンティ・ホール問題は当塾の直前講習において出題したので、受講した受験生はラッキーであった。モンティ・ホール問題は細かく場合分けして確率を考えないと、間違える。問題の詳細は省くが、最終的に箱を変えるのと変えないのでは当たる確率が異なるのか変わらないのかを考える問題である。そして、多くの人は変えても変えなくても確率が同じと考えるが、じつは変えることで確率は倍になる。その理由を確率計算できちんと示す必要がある。

計算問題は、課題文の内容に沿って計算方法を理解し、計算ミスがないように丁寧に計算することが求められる。慶應義塾大学商学部の難易度は、年度ごとに大きく異なるので、大学が発表している受験者の平均点などを参考に、年度ごとの難易度を判断してほしい。

計算問題や数理的思考を問う問題をはじめ、暗号など様々なテーマの問題が出題される慶應義塾大学商学部の論文テストであるが、数理的推論という問題形式と学部系統的な出題テーマという傾向は今後も大きくは変わらないと考えられる。

<課題文の分析>

大問番号	I～II
内 容 (主題)	I 超スマート社会の倫理 II モンティ・ホール問題
出 典 (作者)	I 戸谷洋志『スマートな悪—技術と暴力について』、講談社、2022年 II ローゼンハウス『モンティ・ホール問題』、松浦俊輔訳、青土社、2013年
長短・ 難易等 前年比較	長短 (短い・やや短い・ 変化なし ・やや長い・長い) 難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

論文テスト 慶應義塾大学 商学部 2/3

<大問分析>

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答字数	コメント (設問内容・論述ポイントなど)
I	課題文	学部系統的	1	その他 (空欄補充)		課題文の空欄に入る適切な語句を選択肢から選び、その番号をマークシート解答用紙(1)(2)～(19)(20)解答欄にマークする。
			2	その他 (空欄補充)		課題文の空欄(A)～(C)に入る適切な語句を選択肢から選び、その番号をマークシート解答用紙(21)～(23)解答欄にマークする。
			3	その他 (空欄補充)	計10字	課題文の空欄(ア)～(ウ)に入る適切な語句を課題文中から抜き出し、解答用紙の所定の欄に記入する。
			4	その他 (推論)	30字	課題文の下線部(a)について、なぜ「フィジカル空間(現実世界)」という表現が衝撃的なのか、空欄に入る最も適切な語句を、「サイバー空間」という語句を用いて、解答用紙の所定の欄に記入する。
			5	その他 (推論)	30字	課題文の下線部(b)について、なぜ事実と当為の区別に言及したのか、空欄に入る最も適切な語句を、解答用紙の所定の欄に記入する。
II	課題文	学部系統的	1	その他 (数値計算)		課題文中の空欄(24)～(49)に入る適切な数字をマークシート解答用紙(24)～(49)解答欄にマークする。
			2	その他 (推論)		課題文中の空欄(A)～(C)に入る最も適切な組を選択肢から選び、その番号をマークシート解答用紙(50)～(52)解答欄にマークする。
			3	その他 (推論)		課題文中の空欄(ア)～(イ)に入る最も適切な語句を選択肢から選び、その番号をマークシート解答用紙(53)～(54)解答欄にマークする。
			4	その他 (推論)		課題文中の空欄(あ)～(え)に入る最も適切な語句を選択肢から選び、その番号をマークシート解答用紙(55)～(58)解答欄にマークする。
			5	その他 (推論)	20字	1番目のゲームと2番目のゲームでは、賞品獲得を目指す際にとるべき行動に違いが生じる。その理由を説明するとき、空欄に入る最も適切な語句を解答用紙の所定の欄に記入する。

※出題形式は「テーマ・課題文(英文を含む場合は付記する)・図表・その他」

※テーマ・課題文の内容は「一般教養的・学部系統的・教科論述的・その他」

※設問形式は「論述・要約・説明・分析・その他」

論文テスト 慶應義塾大学 商学部 3/3

<答案作成上のポイント・学習対策等>

大問Ⅰは、「超スマート社会」の倫理的な問題を扱った問題である。問1、問2、問3は空欄補充問題である。問1は選択肢が多いので、正しい選択肢を見落とさないように注意が必要である。問3は課題文から適切な語句を抜き出す問題である。課題文の語句を注意深く吟味する必要がある。問4、問5は推論問題である。問4ではフィジカル空間と現実世界を同一視することの問題を答える。問5は事実と当為の区別に言及した理由を答える。昨年はAIに関する出題だったので、今年の「超スマート社会」もその延長にある問題だといえる。

大問Ⅱは、モンティ・ホール問題である。モンティ・ホール問題は以下のような問題である。

- ・3つの箱がある。一つは当たり。二つははずれである。
- ・挑戦者は三つの中から一つの箱を選ぶ。
- ・司会者は答えを知っており、残り二つの箱の中でははずれの箱の一つを選んで開ける。
- ・挑戦者は残り二つの箱の中から好きな方を選べる。このとき箱を変えるべきか？変えないべきか？

司会者がはずれの箱を開けることで、確率が変化することを読み解く問題だが、ほとんどの者は変えても変えなくても同じ確率と誤答する。なぜ、そうでないのかを細かく場合分けして説く必要がある。

学習対策としては、経済学に関する基本的な知識を身につけることと、計算力を磨くことである。過去問を中心にしっかりと備える必要がある。河合塾の授業や講習を受講していればこのような特殊な形式の問題にも十分に対応できるだろう。